

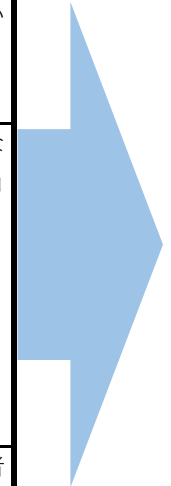
2023年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 (NIHOアルテ) 作成日時 (2023年 10月 3日)

代表	施設長	本部
印		

2023年度 改善への取り組み	コンサル内容を、スタッフミーティング等を利用し共有し、スタッフ職員の支援力・基礎力向上と、実践への応用力につなげる
今年度の施設目標	保護者間の情報共有や関係機関との連携の強化、子どものイベントへの参加、屋外活動の充実

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での相違点
環境・体制整備	・ 職員の配置数が適切である	・ 子どもの活動等のスペースが十分に確保できているとは言えない ・ 設備等のバリアフリー化の配慮が適切にされていない
業務改善	・ PDCAサイクルに職員が広く参画できている ・ 職員間の情報共有のシステムを確立したことで、特性や保護者ニーズに沿った個別対応に繋がっている	・ コロナ禍での自粛に対する理解はあるが、公園遊びなどの外出支援やスタジオでの調理など以前行っていたプログラム活動復活の希望がある
適切な支援の提供	・ 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がされている ・ 保護者に対して面談や育児に対する助言等の支援が行われている ・ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	・ 父母の会の活動の支援や保護者会等の開催など保護者同士の連携が支援されていない ・ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会が用意されていない
関係機関や保護者との連携	・ 非常災害の発生に備え避難救出、その他必要な訓練が行われている	・ 子どもの主治医等と連絡体制が整っていない。 ・ 児童発達支援センター、発達障がい者支援センター等の専門機関との連携が薄い
保護者への説明責任等	・ 運営規定、支援内容、利用者負担等について説明を丁寧に行なっている ・ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じたり必要な助言や支援を行っている	・ 父母の会の活動の支援や保護者会等の開催など保護者同士の連携が支援されていない
非常時等の対応	・ 非常災害の発生に備え、必要な訓練が行っている ・ 虐待防止の為、職員の研修機会を確保するなど適切な対応をしている ・ 身体拘束を行うかについて組織的に決定し、保護者に了解を得たうえで支援計画に記載している ・ ヒヤリハット事例を事業所内で共有している	・ 避難訓練を行う等の事前の情報が薄い。 ・ また、行った様子が公表されないで様子がわかりにくい



分析検討してみたの事業所の強み
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者、保護者様たちが安心して利用することが出来ている ・ 動画提供等、ITまたはICTを利用し、支援の様子や利用者の活動の様子を保護者様に情報共有する試みが大変好評を得ている ・ パーソナルタブレットシートを使った利用者個別の特性の共有が職員間でとりやすい ・ インフォログの活用が定着し、職員間で利用者の行動記録や支援の仕方などの情報も共有しやすい環境にある ・ LINEやHPといった媒体を利用することで災害、感染等の非常時対策の保護者との共有が進んだ

分析検討してみたの事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設側が考えるように、中の情報伝達が外部へ向けて適切にできているわけではない。「中の様子がわからない」といった声は継続的に聞こえてくる。より一層動画や写真、資料を有効活用した情報共有に力を入れてゆく必要がある。 ・ コンサルの職員へのフィードバック等ができていなく、それが職員毎の姿勢のばらつきに繋がっている。常勤パートをコンサルに参加させるなどの策を講じる必要がある。 ・ コロナの収束を鑑み、体を動かす活動の再開を計画する ・ 保護者会等の活動、外部機関との連携が薄く、積極的に外部と繋がる必要がある <p>また、それらを記録に残したり、保護者に報告する必要がある</p>

事業所の改善への取り組み
<p>①保護者様から見た、中の情報の共有について</p> <p>⇒情報紙媒体、ラインワークス等での情報共有の仕方を一新し、幅広い保護者様に向けて中の様子をお伝えできるよう工夫をする。</p> <p>⇒より内容の濃い情報伝達が短時間で出来るよう、スタッフミーティング等を活用しながら方法を探る。</p> <p>⇒スタッフ構成が外面からも見てわかりやすいような工夫（スタッフカードの復活等）をする。</p> <p>⇒お迎え時の保護者対応で、共有する情報が食い違ったり、内容が薄くなり過ぎないように、話す内容に関しての注意事項を全スタッフで再度確認する。</p> <p>②今年度新規利用者の支援の充実</p> <p>⇒コンサルタントと密に連絡を取りながら、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者への有効な支援・スタッフの機能的な動きを両側面からとらえた活動の見直しを図る。

自己評価を行っての事業所としての感想など
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の影響や余波により仕方がない部分はあったとしても、活動内容や支援の様子、利用者様の過ごし方等の情報のご家族への伝わり方にバラつきが生じているとの感想を持った。 ・ 同時に、お迎え時での保護者対応の内容も見直す必要があると考える。 ・ より内容の濃い情報伝達が短時間で出来るよう、スタッフミーティング等を活用しながら方法を探る必要を感じた。 ・ 「らふぁーと」といったイベントや広報部会との連携で、「活動内容の充実」と「その情報の共有」のバランスをとってゆく必要を感じる。 ・ 我々スタッフが思っているより、利用者の中での様子は気にされているし、スタッフへの接しやすさ、わかりやすさも同時に望まれている。

来年度の施設目標	ご家庭への、支援内容・活動内容といった様子の伝達の強化と、現場スタッフの参加による、コンサルティングのより確実な現場へのフィードバック
----------	---